

共に学び 共に成長

皆さん、内外部を問わず様々な研修を受講されるかと思いますが、研修で得た知識を自分だけのものに行っているのがもったいないと感じたことはありませんか？

このコーナーは、研修受講者が研修の良かった点や他の人に伝えたいと感じたことを紹介し、皆さんと共有するコーナーです。共に学び共に成長しましょう！

第6回 緊急消防援助隊教育科「航空隊長コース(第24回)」



警防部警防課 航空隊
消防司令補 坂本 一訓

はじめに

令和6年12月5日から18日まで(5日・6日はリモート講義)、消防大学校において「緊急消防援助隊教育科航空隊長コース(第24回)」を受講しました。

消防大学校は、専門的かつ高度な教育訓練を受けるために全国から消防職員が集まる、いわば「消防のエリート校」ともいえる国の教育機関です(私はエリートではなく、先輩方に叩き上げていただいただけであることを申し添えます)。私が受講したコースは、消防防災航空隊の隊長、副隊長など指揮・指導する立場にある職員を対象としており、主に航空隊の運用・活動統制や航空運用の安全管理について学びました。

ちなみに、消防防災ヘリコプターは、全国(沖縄県を除く)に77機配備され、大阪府では大阪市が2機(おおさか号・なにわ号)を運用しています。



消防学校での生活

全国から集った60名が10名ずつ6班に分かれ、敷地内の寮で寝食を共にしながら学びました。

消防学校での生活は、消防士として採用され初任科学生として学んだ頃を思い起こさせるものでした。毎朝6時に起床し、まずは全員で寮や敷地内を清掃するところから一日が始まります。その後、7時から食堂で朝食をとり、9時からの講義に向けて準備をし、講義は17時30分まで。食堂で夕食をとった後は、自主学習や同部屋のメンバーと意見交換するという生活サイクルでした。

一方、講義がない土日には、同部屋だった東京消防庁のメンバーのついで東京消防庁の多摩航空センターを見学し、東京観光にも同行してもらったなど、絆を深めることができました。

印象に残った講義

ここでは、消防大学校で学んだ研修のなかから、特に印象に残っている講義をご紹介します。

■ヘリコプター墜落事故による殉職

平成29年3月5日、長野県消防防災航空隊のヘリコプターが、訓練地に向かう途中に山の中腹で墜落し、搭乗していた9名全員が殉職した事故について、当時、航空隊に所属していた職員の方から、当時の状況や墜落の原因、再発防止対策などについて講義を受けました。

同航空隊のヘリコプターは、樹木に衝突後、山の斜面に墜落しています。事故の原因としては、山地を飛行中、地上に接近しているにもかかわらず

ず回避操作が行われなかったことから、機長の覚醒水準が低下したことにより危険を認識できなかった可能性があるようです。実際にそのような状態だったかどうかは明らかにできなかったものの、この事故を教訓に、長野県消防防災航空隊は更なる安全対策の充実強化を図り、安全対策の見える化、継続的な改善の仕組み等を構築してこられました。

講義のなかで、思わずハッとさせられた講師の方の言葉があります。「安全はほんの一瞬で崩壊し、二度と元通りにすることはできない。人は失敗する生き物であり、物は壊れるものである。しかし、修復の努力ができるのも人間で、

あとに続く我々にできないことである。」殉職の悲惨さや、任務達成には安全が不可欠であることを、改めて考えさせられた講義でした。

安全は、現場から無事に帰ってくるまでの結果として与えられるものです。活動の終わりに、1日の終わりに、無事に終わったという成果として与えられているはずなのに、目に見える具体的な形として現れる訳ではなく、さも当たり前のことと感じてしまうような不思議なものです。努力を怠ると簡単に壊れ、ここまでやったから大丈夫というものでもありません。無事に帰ってくるという大きな目標に向かって、チーム全員で作り上げるものだと感じました。

どんなに高性能のヘリや資器材が揃っていても、それを扱うのは人であり、どれだけ優秀な人材が集まっても、チームとして一つにならなければ隊の発展はありません。このことは、地上で活動する隊についても同様ではないか……そんなことも考えさせられました。

■航空医学

航空医学とは、飛行中に起きる「環境の変化×人体の反応」を探求する研究領域です。

飛行中の人体は、地上とは全く異なるストレスにさらされます。ヘリコプターは山越えや気象状況によって高度を上げて飛ぶことがあり、なにより「高高度」の影響を受けます。気圧が低下すると人体は低酸素状態となり、その影響で判断力

の低下、視力低下、眠気、動作が遅くなるなど、航空隊員の安全を守る重要な要素がリスクにさらされます。

加速度(G)と騒音・振動からも、大きな影響を受けます。ヘリコプターが急旋回すると、加速度(G)が増加し、血液が下半身へ流れることで、ブラックアウトに陥る可能性が高まります。ヘリコプター固有の騒音や振動により慢性疲労や注意力低下に陥ることがあるほか、空間識失調など様々な飛行環境が人体に影響を及ぼすこともあります。そのような危険な環境下で活動していることを自分事として理解した、とても有意義な機会となりました。

おわりに

消防大学校では、ほかにも航空機運用における指揮管理や航空事故を未然に防ぐリスク管理など、消防防災航空業務に関して幅広く学ぶことができました。そして、今回の入校を通じて一番の財産になったのが、全国の消防航空隊員との顔が見える関係です。今後も各航空隊との繋がりを大切にしなが情報共有し、安全対策の発展に努めていきます。

消防大学校は本当に素晴らしく、高度な知識とともに最高の仲間に出会える、唯一無二の学校だと感じました。消防人生をより輝かせるべく、多くの方にチャレンジしていただきたいと思っています。



左：プレゼンする筆者。

テーマは「全国の消防ヘリが活動した災害事例」。

右：校外研修での集合写真(埼玉県防災センターにて)

今回で最終回となる「ジョカツ!!」。消防吏員として、女性活躍社会の礎を築かれた先輩方、道を切り開き続ける後輩の皆さん、互いに高め合う同僚に加え、自らもその中心で尽力されている平野消防署の金井署長にお話を伺いました。「共に歩んでいくこと」を後押しする言葉をいただきます。

ジョカツ!!



「未来へ輝け」女性消防士へのエール！
平野消防署長 金井彩子

「働いて、働いて、働いて...」。2025年流行語大賞に選ばれたこの言葉を発したご本人は、後に賛否両論あったと話されていますが、私は当時、この言葉に込められた一人の女性の揺るぎない覚悟と熱意に、心が震えるような思いでした。高市早苗総理大臣の誕生は、日本における女性活躍の新たな光となりました。

また、女性活躍推進法の改正により、2026年4月から、従業員101人以上の企業には男女の賃金差や女性管理職比率の情報を公表することが求められます。

令和7年4月1日現在、大阪市消防局（消防吏員に限る）における女性の割合は5.1%、また、管理職（司令以上）に占める女性の割合は4.7%です。

全国の消防を見ても、まだまだ女性消防吏員の人数を増やすことに重点が置かれ、女性管理職の育成はこれからというところではあります。

消防でキャリアを重ねる女性たちは、先行きの見えないプレッシャーと向き合いつつ、手探りで進んでいる状況です。それでも、女性活躍は、一歩一歩着実に進んでいます。今回は、私の経験から未来に向かって歩む女性消防吏員の皆様へ、心からのエールを贈ります。

◆採用からこれまで

民間へ就職する予定だった私は、急遽方向変換して消防の道へ。

平成9年の採用から29年目、女性吏員としては3期生です。災害現場での経験が少なく、隔日勤務は通算3年でした。救急司令、中隊長と管理職になってからの現場職は苦難の連続でしたが、多くの方に支えられ、署長となった今ではその経験が大きな糧となっています。



消防学校時代
愛すべき同期生

◆管理職はオールマイティじゃなくいい

振り返れば、管理職という「私にはまだ不相応だ」と感じていたように思います。しかし、管理職になってみると、仕事と人生の視野が広がり、やりがいや面白さを感じられるようになりました。組織の仕組みや自分の役割がこれまでより明確に見えてきます。

◆働きやすい環境は自ら作る

育児、介護や自己啓発など、誰もが働きやすい職場環境を支える制度は増えましたが、女性に限らず、生活事情は人それぞれで課題も残っています。多様なライフスタイルを受け入れ、プライベートを大切にしながら、中間の働き方も応援する姿勢が必要です。特に、家族のことで急な休みが必要になることは誰にでも起こります。



救急司令の頃

また、公私を問わず相談者や協力者を増やすことで、心身への負担が軽くなります。子育てや親の介護のため、複数の頼れる場所を作ると安心ですね。困ったときはお互い様です。思いやりをもって協力する心が、ライフワークバランスを進めます。

◆ロールモデルは身近に

消防庁女性活躍のアドバイザーをしていた際によく聞いたのは「女性のロールモデルがない」という声です。消防ではロールモデルが身近にいないことも多いですが、性別や職場に拘わらず、広く見渡せば多くのロールモデルが存在します。先輩の「ここが良い」と思える部分を見つけ、それを自身に生かせば良いのです。

し、セルフケアも大切に自分を育ててください。気付けば、あなた自身が誰かのロールモデルになっているはず。あなたの生き生きとした姿こそが、次の世代への最高の応援となります。



消防庁長官と消防救急課の仲間

◆時には流れに身を任せて

年齢を重ねると、振り返って「なんとかやってこられた」と思えるものがあります。若い頃は、他人と比べてこれがないとか、能力が無いとか、自分を否定しがちでしたが、今では、その

管理職だからといって、全てに精通したスーパーウーマンを目指す必要はありません。得意分野は取り組みやすいですが、視野が狭くなり、新しいことが見えにくくなります。むしろ、自分ができる部分は、誰かが活躍できる場所と考へ、仲間を信頼し、豊かな関係を築くことが大切です。

管理職には様々なタイプがいて、対応のプロセスに正解はありません。短期的な成果や自分の成長に焦らず、自身の強みを信じて前進してください。その能力を期待して、組織は背中を押してくれたのですから。



副署長（警防）の頃
現場を支えてくれた皆さんと

時間があったりなかったと感じます。自分が良いと思うことに積極的に取り組むべきでした。

難しい局面では「大丈夫、絶対うまくいく」と自分を鼓舞して乗り越えてきました。眠れない夜もありますが、これまで幾度となく同じような苦難に立ち向かいながらも、何とか乗り越えたんじゃないかと頭の中で繰り返します。

小さな幸せを大切に、時には流れに乗って身を任せることで自分らしく生きられます。新しい仕事や昇進の機会が巡ってきた際も、「できない自分」より、一歩勇気を出して飛び込んでみてください。

◆さらに女性が活躍し、それぞれが輝くために

女性がさらに活躍するためには制度だけでなく、意識改革や挑戦を促すなど、組織で支える体制が必要です。女性が管理職を目指しやすい仕組みや、キャリア支援も不可欠です。これは女性活躍だけでなく、組織全体の成長にも繋がります。

多様性が消防の未来を切り拓くと信じ、より多くの女性消防吏員が能力を開花させて輝き続けることを心から願っています。

◆経歴◆

平成9年
大阪市消防局採用

- H9 【1～3年目】
大阪市消防学校入校
天王寺消防署予防担当
- H12 【4年目】
消防士長昇任
城東消防署予防担当
- H13 【5～8年目】
消防局総務部総務課広報担当
- H17 【9年目】
消防司令補昇任
中央消防署予防担当
- H18 【10～11年目】
消防局総務部総務課庶務担当
- H20 【12～13年目】
総務省消防庁へ派遣
消防・救急課財政係
- H22 【14～15年目】
消防局総務部総務課庶務担当
- H24 【16～17年目】
消防司令昇任
西成消防署救急担当司令
- H26 【18～19年目】
消防局救急部救急課
予防救急担当係長
- H28 【20年目】
消防局企画部企画課
広報担当係長
- H29 【21年目】
消防局総務部総務課
庶務担当係長
- H30 【22年目】
消防司令長昇任
天王寺消防署警防副署長
- H31 【23年目】
消防局総務部総務課
文書担当副課長
- R2 【24～25年目】
消防局予防部予防課
地域担当副課長
- R4 【26年目】
消防監昇任
消防局企画部
高度専門教育訓練センター所長
- R5 【27～28年目】
消防局救急部救急課長
- R7 【29年目】
消防正監昇任
平野消防署長

今回のテーマは「処置の継続観察」

(救急部救急課)

このコーナーでは、「安全文化の醸成と安全管理の徹底」を図ることを目的に、消火・救助・救急など過去の事故事例を振り返り、事例からの学びについて紹介していきます。ここで紹介する内容が、皆さんの日々の活動に役立ち、プロフェッショナルとしての安全意識をさらに高める一助となることを願っています。

今回は、心肺停止状態の傷病者へ特定行為^{※1}を実施し病院へ搬送。病院到着後に医師より挿管チューブの誤挿管の疑いについて指摘を受けた事例を紹介します。

※1 特定行為：気管挿管、静脈路確保、アドレナリン投与

事例紹介

令和7年4月、勤務中の40歳代男性が職場内で気分不良を訴え意識朦朧となったため、救急要請。救急隊到着時、傷病者は同僚に付き添われ職場内で倒れており、心肺停止状態。現場にて救急隊が除細動及び特定行為を実施後、車内収容前に自己心拍が再開し、病院へ搬送するまでの間、容態に変化なし。病院到着後に医師による気管挿管の換気確認の際に誤挿管の疑いを指摘された事例。

事案詳細

- 【車内収容前】**
 - ・救急隊接触時、CPAを確認（心電図波形：VF）、除細動及び同期CPR実施。
 - ・ビデオ喉頭鏡にて気管挿管完了。換気確認結果良好。
 - ・静脈路確保完了後、アドレナリン投与。（投与前心電図波形：VF）
 - ・心拍再開。（除細動計2回実施）
- 【車内収容後】**
 - ・換気確認実施。（チューブくもり：有、換気良好、ETCO2値（呼気二酸化炭素分圧）：有）
- 【病院到着時】**
 - ・傷病者の状態に変化なし。医師の眼前で換気確認実施。
 - ・初療室ベッド上へ移動後、医師による換気確認実施。
 - 胸部に換気音を認めるが、心窩部にも雑音があり、と上司の医師へ報告後、医師がチューブを抜管。

過去からの学び

本事案は、換気確認を行った医師とその上司の医師から、挿管を実施した当初からの食道挿管の疑いについて指摘を受けましたが、挿管実施者は病院到着まで確実な手順で換気確認を行っており、そのことを医師に伝えるとともにカブノメーター^{※2}のデータからも適切な挿管であったことが確認されました。しかし、救急活動要領で定められている気管挿管引継ぎについて遵守できていない事項（今回は下表の「対処内容」下線部分）もあり、今後同様の事案を発生させないためにも救急活動要領を再確認し、徹底していきましょう。

気管挿管引継ぎ			
場面	救急車病院到着時 (ストレッチャーによる搬入前)	病院内移動時	傷病者を初療室ベッドへ移動時
対処内容	気管挿管認定救急救命士自ら、カブノメーターの値及び波形が適正であることを確認し、 <u>医師がいる場合は、その他の換気確認項目も併せて、その場で医師に対して報告すること。</u>	携帯用カブノメーターを気管内チューブに装着したまま、チューブの状態に注意を払い、初療室まで移動すること。	傷病者をベッドへ移動する直前に、 <u>携帯用カブノメーターの値及び波形を医師とともに確認し、移動後にすみやかに換気確認を依頼すること。</u> なお、気管挿管認定救急救命士は、やむを得ない事情がない限り、医師の換気確認に立ち会うこと。

※2 カブノメーター：呼気に含まれる二酸化炭素を測定する機器。ETCO2値（呼気二酸化炭素分圧）で換気が行えていること、また継続的にカブノグラフ（波形）が表示されることが確認できれば、挿管チューブの位置が適正である指標となる。



振り返り

本事案は、心肺停止傷病者に特定行為を実施し、心拍が再開した後も観察を継続し、病院到着まで適切な呼吸管理ができていたことから模範的な活動であったと言えます。継続観察を怠ると、誤挿管になっていても気づくことができず、傷病者への影響は計り知れないものとなります。救急活動はいかなる状況下でも、傷病者への『**観察→処置→評価**』の繰り返しであることを再認識し、これからも安全な救急活動に努めていきましょう。

人材育成の

ヒント Vol.11

知っておきたい 学習曲線

こんにちは、高度専門教育訓練センター人材育成担当です。

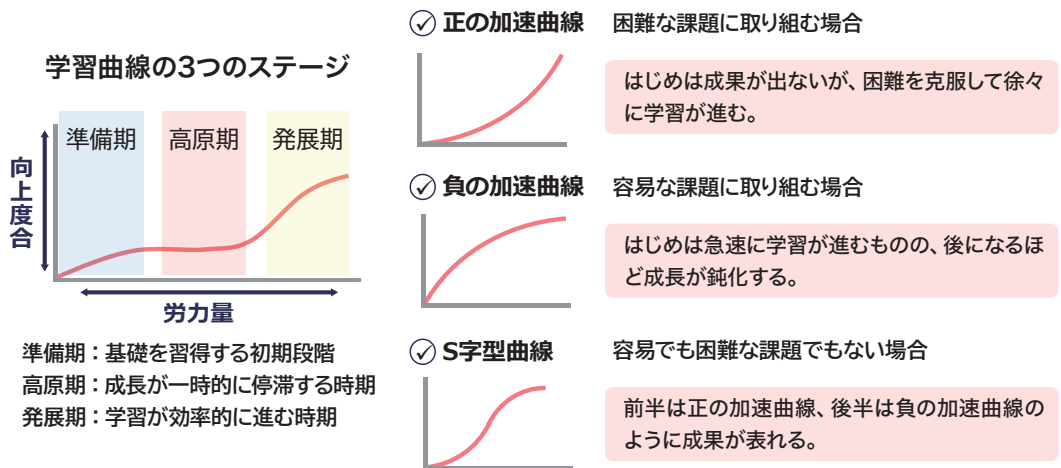
このコーナーでは人材育成を推進するにあたり、指導をする上で役立つ「ヒント」を掲載しています。皆さまの指導者としての能力向上にむけ、職場でのより良い人材育成につながることを願っております。

－ 学習曲線とは －

学習や訓練に費やした労力に対して、知識・パフォーマンスの向上や習熟度合いの関係性をグラフに表したものです。1885年にドイツの心理学者ハーマン・エビングハウスによって提唱されました。

横軸は学習時間や練習回数など費やした労力量、縦軸は習熟度やパフォーマンスの向上度合を示しています。努力に比例して上達すると誤解されがちですが、実際のグラフの形は、技術や知識の難易度・時期(初期段階など)・実施する環境(適切な支援の有無など)によって変わります。

これは、人材育成の過程で成長度合の判別に役立つ考え方となります。



◎ 成長が一時的に停滞する高原期【プラトー】の存在・・・

指導する場面において、学習時間の量に比例して部下や後輩の習熟度が右肩上がりに伸びることが理想でしょう。しかし誰も学習が停滞する時期を経験します。

プラトーは決してマイナスではありませんが、成長を実感できない期間であるため、「自分には無理だ」「能力の限界だ」と思い込んでしまうことも。この時期が続くと学習意欲は下がり、成長する見込みがあるにもかかわらず諦めてしまうことに繋がりがかねないため、

指導者としては、「プラトーは成績が上がる前兆である」と捉え、適切に支援しましょう！

担当者Tのよもやま話

「努力は必ず報われる」という言葉は人にエールを送るときによく使われます。しかし世界的に有名なサッカーアルゼンチン代表のメッシは次の名言を残しています。

「努力すれば報われる？そうじゃないだろ。報われるまで努力するんだ」

この言葉には、成功を手にするためには単に努力するだけではなく、結果が出るまで諦めずに続けることが重要だという強いメッセージが込められているのではないのでしょうか？

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第22回 緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練 —後方支援活動訓練について—

警防課〈警防対策〉

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

年実施されています。近畿ブロック合同訓練は、2府7県（福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県）の持ち回りによるもので、緊急消防援助隊による図上訓練及び実働訓練が実施されます。令和7年度は、10月25日から奈良県内で開催され、指揮支援隊（1隊7名）、航空隊（1隊3名）及び大阪府大隊（18隊142名）が、2日間の訓練に参加しました。

今回は、大規模地震を想定した救助・救出訓練や後方支援活動訓練など、様々な訓練が実施されましたが、ここでは、後方支援活動訓練についてご紹介します。

はつらつ

警防課（警防対策）が担当している事務の一つに、緊急消防援助隊の訓練に関するものがあります。

緊急消防援助隊に関する訓練は、「緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画」において、全国合同訓練及び地域ブロック合同訓練を定期的・実施するものとされており、全国合同訓練がおおむね5年に1回、近畿ブロック合同訓練が毎

後方支援活動について

緊急消防援助隊といえば、まずは人命救助活動を担う隊員にスポットが当たることが多いと思います。そんな彼らの活動を支えるのが、後方支援隊として派遣される隊員です。

緊急消防援助隊が派遣され、隊員が人命救助活動等に従事する際には、後方支援隊の活動が欠かせません。適切なサポートが、安全かつ円滑な活動に大きく寄与するからです。

後方支援隊の主な任務は、最前線で活動する

後方支援活動拠点のレイアウトなどについて

後方支援活動では、次のような宿営地の設営・運営により、活動隊員が宿営地で可能な限り体力を回復できるように支援します。

宿営地内は、主に「デコンタミネーションエリア」「食事エリア」「就寝エリア」に区分され、必要な資器材をセッティングし、動線を制御するルールが設けられます。（図）

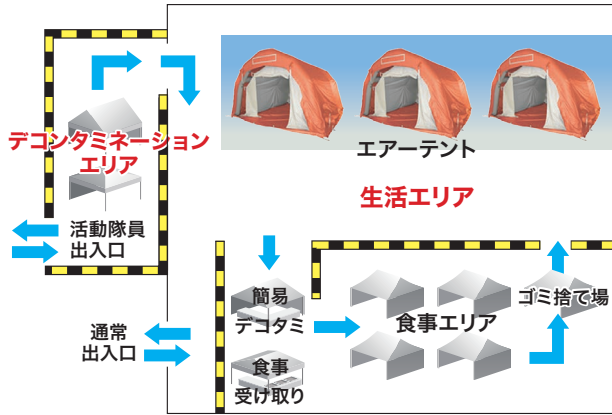


図 宿営場所の設営イメージ

■デコンタミネーションエリア

デコンタミネーションとは「除染」を意味し、ここでは宿営場所の生活エリア内に汚染物などを持ち込まないことを指します。

被災地では下水や汚水などにより、感染症の危険性が高まります。そのため宿営場所では、感染症などが蔓延しないよう衛生管理を徹底します。デコンタミネーションエリアは、現場で使用した靴などの洗浄エリア、資器材洗浄エリア、手洗いがいエリアなどで構成され、生活エリアへの動線も考慮して設置されます。

■食事エリア

給食活動では、大型の湯煎機能を備えたレスキューキッチンやコンロを使い、ご飯やカレー、パンなどを温めて、活動隊員が宿営地に戻る時間に合わせて提供します。食事の提供が終われば、翌日の食事準備なども行います。

■就寝エリア

就寝エリアは、エアータントや仮設トイレなどの資器材により、デコンタミネーションエリアと食事エリアを通過した先に設置します。

エアータントには「高機能エアータント」と「エアータント」の二種類があります。高機能エアータントは冷暖房付きで、猛暑や厳寒下で長時間活動する隊員の宿泊や休憩場所として、

隊員への支援や記録、宿営地での食事の準備や仮眠場所の整備など、多岐にわたります。必要に応じて人員や物資の搬送、燃料補給車による燃料補給なども行い、被災地で活動する隊員がより良い環境で活動できるようにサポートします。



デコンタミネーションを行っている様子



物資の搬入



設営されたエアータント



夕食時の食事受け取り場所

長期にわたる活動を支援するものです。いずれのテントも専用送風機で膨らませ、簡易ベッドや寝具（シュラフ）、季節によっては毛布も配置します。

後方支援活動の詳細については、「緊急消防援助隊大阪府大隊後方支援中隊マニュアル」をご参照ください。

おわりに

いつ、どこで発生するかわからないのが大規模災害です。職員が事前に知識を身につけておくことが、後方支援隊の活動においても、施設設営の短時間化や活動の円滑化につながります。今回の記事をきっかけに、緊急消防援助隊に後方支援隊が存在していること及びその活動の重要性をご理解いただけると幸いです。

令和8年度は、緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が大阪府で開催予定で、9年に1度の地元開催となります。全国合同訓練は宮城県で実施され、大阪府大隊も参加します。

今後も緊急消防援助隊大阪府大隊が発展し続けるよう、努力して参ります。

消防学校の歴史

その始まりは、明治43年(1910年)、大阪市消防規定の制定に伴い、西区の大阪府警察部西消防署内に設置された「大阪市消防教習所」に遡ります。その後、大正7年に天王寺区に移転し、名称も大阪府消防訓練所と改称されました。大阪府の消防練習所としての位置付けでしたが、昭和23年に大阪市消防練習所と大阪府立消防訓練所に機能分離された後、昭和25年に大阪市消防練習所のほうは消防学校に改称され、その翌年に消防学校(城東区)が誕生しました。

昭和51年には、東大阪市(現高度専門教育訓練センター)に移転しますが、平成26年4月に再び機能統合され、初任学校教育は大阪府立消防学校(大東市)に一本化されて現在に至ります。

「先輩方が積極的に訓練を見てくださり、質問すると、どんなことでも分かりやすくかみ砕いて説明してもらえた」「先輩方がとても優しく、メリハリのある対応が素晴らしい」「みなさん忙しいにも関わらず、時間を見つけて指導してくださる」「新しいことを教えてもらい、少しずつできる仕事が増えてとても充実している」「新人である自分の意見も尊重してくれる」「周りの先輩方がたくさん教えてくれて、成長するチャンスを与えら

消防署での実務教育について、第166期新任教育生(令和7年9月末に新任実務教育修了)から、次のようなコメントが寄せられています。

新任教育生の声

消防署での実務教育を受けて

このたび新任教育を修了した第166期生たちも、先輩職員から多くのことを学んだことと思います。このついでに教えを受け取った新人たちが、将来的には自らが指導にあたる役割を担ってくれることを期待し、これからの大阪市消防局を担う次世代を育てる良い循環が続いていくことを願っています。

次世代を育てる良き循環を!

高度専門教育訓練センターでは、新任実務教育生の日々の姿を見ることはできませんが、訓練センターで節目毎に行われる教育訓練等で、会うたびにどんどん凛々しくなっていく姿を見ると頼もしく感じ、良い教官・先輩・上司に恵まれているであろうことをうれしく思います。

今月は、消防職員として採用された新人を対象とする、新任教育全般について取り上げます。

新任教育の概要

初任学校教育

大阪府立消防学校に約半年間、入寮生活を送りながら、消防吏員として基礎的な知識及び技術を学びます。

初任教育というカテゴリーは昭和24年から始まったもので、当初は2カ月という短い期間でした。その後2年後に3カ月、更に2年後には6カ月となり、現在に至ります。消防学校での半年間の学びを修了すると、実務教育生として消防署での実務を半年間経験し、新任教育の修了となります。

新任補完教育(2回)

新任補完教育は、初任教育中に消防署で1当務の実務研修及び高度専門教育訓練センターで1日の集合研修、計3日間の研修を、救急実務研修と警防実務研修各々1回ずつ、計2回実施するものです。

これは、大阪市の組織概要・通信体制・出場体制等の研修を行い、当局の体制を配属前に理解しておくことで、卒業後に感じる消防学校とのギャップを少しでも解消することを目的としています。なお、高度専門教育訓練センターでの1日研修の主な内容は、以下の



講義「ハラスメント対策」



グループワーク「交通事故防止」

通りです。

【講義内容】「大阪市の組織・消防局の体制」「救急通信体制」「服務規律」「接遇」「予防」「出場体制・基本戦術」「基本訓練」

新任実務教育

消防学校修了後、消防署で半年間の実務を経験するなかで、消防職員として必要な知識や技術を獲得し、向上させることを目的としています。

新任総合教育

新任1年目の消防職員として必要な知識及び技術を習得することを目的として、高度専門教育訓練センターにて、様々な講義や訓練を受けます。その主な内容は以下の通りです。

【講義内容】「人材育成基本方針」「メンタルケア・ハラスメント対策」「服務規律・交通事故防止」「対応力・ヒューマンスキル」「実火災体験型訓練」

センター教育・研修を徹底解剖

Just Do It!

第18回 次代を担う消防人を育てる!新任教育のすべて

高度専門教育訓練センター



山田 悟司

今月の担当教官(山田)のひとこと

新任教育が終了しても、自己研鑽の日々は終わりません。気持ちを新たに、これからも知識・技術の習得に努め、立派な消防人としての道を歩んでほしいと思います。

新たな取組 —実務教育で日勤業務を経験—

令和6年4月から、新任実務教育期間中に、予業務に携わるという新たな取り組みを始めました。情報化社会の進展や職員の定年延長、働き方改革等、社会全体の行動や価値観の変化により、消防に対する市民のニーズは複雑多様化しており、消防職員にも価値観の多様化を踏まえた柔軟な市民対応や、責

任ある説明が求められています。消防に関する高い専門性はもちろんのこと、日々の業務を進めていくうえで必要な法令の知識や行政感覚を習得し、幅広い知識とモラルをもった消防職員を育成することを目的としています。

この新たな実務教育は、各消防署の創意工夫や協力的なしに成し得ないものです。これからも試行錯誤を重ねながら、新任教育生にとってより良いものになりたいと考えています。

れていることがうれしい」「署の全員が自分のための訓練を積極的に行ってくれていると感じる」など

このように、とても前向きな意見が多く聞かれます。加えて、輝くような表情をしている者が多いことから、各消防署の皆さんが、新人に対して非常に親身で、積極的に人材育成に取り組んでくださっていることがうかがえます。

リユースタイプの感染防止衣

はじめに

感染リスクを最小限に抑えるために、救急隊員が救急活動時に必ず身に付けている感染防止衣。この「感染防止衣」については、「救急業務実施基準」第33条別表1に明記されている通り、感染症対策に欠かせない資器材の一つです。

今回の「救急いろは」では、大阪市消防局におけるリユースタイプの感染防止衣導入までの経緯を振り返るとともに、当局及び他消防本部の感染防止衣を紹介します。

ディスプレイから「リユースタイプ」へ

大阪市消防局では、それまでのディスプレイと並行して、平成26年6月から、全国に先駆けて繰り返し使用可能な「リユースタイプ」の感染防止衣(上衣)を導入しました。令和3年6月からは、下衣についてもリユースタイプを使用しています。



- 各種ポケットは、用途に応じてマチの形を変えている。
- ・左胸ポケットには聴診器等を収納できる。
- ・左袖上部にペンさしを装備している。
- ・両脇ポケット(雨蓋付き)には前に膨らむマチがついており、シューズカバーや手袋を入れやすい。



- 背面のウエストに平ゴムを入れることで、めくれ上がらないようにしている。
- プルズンにすることで丈を短めに設定。
- プルズンにすることでストレッチャーなどへの生地巻き込みを防いでいる。
- 夜間でも視認しやすいように反射布を施している。

大阪市消防局の感染防止衣とその特徴



枚方寝屋川消防組合

神戸市消防局

名古屋市消防局

他消防本部で導入されているリユースタイプの感染防止衣



左:ディスプレイ 右:リユースタイプ

大阪市消防局の感染防止衣

リユースタイプの感染防止衣を導入するにあたり、既製品ではなく、当局のオリジナル仕様ものを選択しました。

現場で活動する救急隊員の感染防護性を高めるためにSEK加工(制菌加工)を施しました。一方で、感染防止衣を着用していても活動のパフォーマンスが向上するよう、撥水性・通気性とのバランスにもこだわって作成しました。

これらに加えて、ポケットの形や着丈など、ディスプレイにはない様々な工夫も盛り込み、企画案の作成からサンプルの出来あがりまで、一年半あまりを要して完成に至ったのが、現在使用している感染防止衣です。このように、既製品ではないため導入するまでの苦労がありました。リユースタイプの感染防止衣を導入したおかげで次のような様々なメリットが生まれました。

リユースタイプの感染防止衣のメリット

- メリット
- クリーニングのたびに抗菌剤を使用することで、感染防護性を維持することができる。
- 大量の在庫を確保する必要がない。
- 上下7サイズ(S〜5L)あり、人事異動時も幅広いサイズ展開のためサイズ調整がしやすい。
- 極寒期には、防寒用インナーベストを使用することができる。
- 破損や汚損があれば、修理または交換することが可能。

■救急隊員からの声

- 機能的なだけでなく、ディスプレイに比べてデザイン性が優れており、着ると気持ち上がる。
- リユースタイプの感染防止衣は、SDGs(持続可能な開発目標)が社会的課題とされるなか、いまのトレンドだと感じる。
- 夏場等高温環境下であっても、ディスプレイに比べると圧倒的に涼しく快適で、熱中症対策になっていると感じる。

他の政令指定都市の状況

現在、リユースタイプの感染防止衣を導入している消防本部(東京消防庁を含む政令指定都市)は以下の通りです。

- | | |
|------------|-----------|
| ● 大阪市消防局 | ● 新潟市消防局 |
| ● さいたま市消防局 | ● 浜松市消防局 |
| ● 千葉市消防局 | ● 名古屋市消防局 |
| ● 東京消防庁 | ● 神戸市消防局 |
| ● 横浜市消防局 | ● 岡山市消防局 |
| ● 相模原市消防局 | ● 北九州市消防局 |

素材は各消防本部ごとに様々ですが、W.L.Gore & Associates社製のGORE-TEX®、Donaldson社製のTetratex®、三菱ケミカル株式会社製のDIAPLEX®を取り入れた感染防止衣を導入している消防本部もあります。

おわりに

高齢化の影響等により救急需要は依然として高い傾向にあり、現場を担う救急隊員の負担を軽減しつつ、感染防止衣をはじめ様々な資器材を安定的かつ持続的に提供していくことが重要になっていきます。

今後も、引き続き現場の声を参考に、現状に満足せずこだわりをもって、資器材の改善・改良に努めて参ります。